

2015 年度 関西学院大学自己点検・評価
 < C 票 > 第三者評価結果 【神学研究科】

教育研究目標 1

1. 6 年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係性 （※ 6 年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 2 名	<p>左記を選択した理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特殊講義（前期課程の科目）と特殊研究（後期課程の科目）を合併開講にするのであるから、非常に具体的。（評価者 A） ・ 前期課程の「特殊講義」と後期課程の「特殊研究」を合併開講という具体的な目標が書かれているからです。（評価者 C）
「具体的でない」 1 名	<p>左記を選択した理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合併授業によって目指す学生像との関連をもう少し具体的に記入することが期待されます。（評価者 B）
その他気づいた点：	
6 年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
<p>目標の内容</p> <p>（設定された 6 年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「神学における専門的な知識を修得し、思索を深める」という目標を達成するための方法として、特殊講義（前期課程）と特殊研究（後期課程）を合併開講するというのだと思いますが、単に前期課程と後期課程の講義科目を合併するだけで、目標が達成されるかどうか、疑問です。合併に併せて、別の手立て——例えば、単なる講義に加えて、後期課程学生と前期課程学生に共同で下調べ・調査・分析・批判・講読等をさせる機会を設ける、など——を必要とするのではないのでしょうか。（評価者 A） ・ 合併授業への取り組みは妥当と思われるますが、授業は人材育成の手段であるため、それによって目指す学生像をもう少し記述することが期待されます。（評価者 B） ・ 前期課程の「特殊講義」と後期課程の「特殊研究」を合併開講という取組は意欲的です。（評価者 C）
<p>評価指標</p> <p>（目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合併授業が開講される分野の数であることを明記する方が分かりやすいと思われる。但し、合併授業によって目指す学生像の達成度を評価できる指標について記載する方がより適切といえます。（評価者 B） ・ 目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当です（評価者 C）
<p>目標達成スケジュール</p> <p>（目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ よく分からないのですが、前期課程と後期課程の講義科目を合併するのであれば、そう決めれば次年度から簡単に合併できるように思われます。従って、2018 年度から実施するというのは、スケジュールとして長すぎるように思えます。（評価者 A） ・ 評価尺度である、A～D がどの時点で達成されることを目指すのかについて明記することが望まれます。（評価者 B） ・ 目標達成に向けたスケジュール設定は適切です。（評価者 C）

教育研究目標 2

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 2名	左記を選択した理由： ・「キリスト教思想特殊講義」において、多彩な講師によるグローバルなキリスト教思想を扱う授業を構想しているからです。（評価者C）
「具体的でない」 1名	左記を選択した理由： ・講義を実施することによってどのような学生の姿を目指しているのかについて記載することが期待されます。（評価者B）
その他気づいた点：	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取り組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<評価者からのコメント> ・妥当、かつ適切だと思われます。（評価者A） ・講義は人材育成の手段であるため、それによって目指す学生像をもう少し記述することが期待されます。（評価者B） ・多彩な講師によるグローバルなキリスト教思想を扱う授業の構想は意欲的な試みです。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<評価者からのコメント> ・新たな内容・形式の科目の設置ということだと思いますから、指標としては妥当です。（評価者A） ・人材育成の手段である講義の改善への取り組みは妥当と思われますが、それによって目指す学生像の達成度を評価できる指標を設定することが望まれます。（評価者B） ・目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当です。（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<評価者からのコメント> ・スピード感に欠けるスケジュールのように思えます。実施の前倒しが可能ではないでしょうか。（評価者A） ・シラバスの作成そのものとしては適切と思われます。（評価者B） ・目標達成に向けたスケジュール設定は適切です。（評価者C）

教育研究目標 3

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 (※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか)	
「具体的である」 2名	左記を選択した理由： ・ 『修士論文優秀賞』を設置する」ということですから、具体的です。(評価者A) ・ 修士論文優秀賞などを設け、競争原理を導入しているからです。(評価者C)
「具体的でない」 1名	左記を選択した理由： ・ 「優秀賞」を設置することと学生の執筆能力の育成との関係をもう少し具体的に記載することが期待されます。(評価者B)
その他気づいた点： ・ 『修士論文優秀賞』の設置が、「修士論文を執筆できる能力の育成」に繋がるのかどうか、疑問です。常識的に考えても、賞の設置は、インセンティブになっても、「能力の育成」とは繋がりにくいからです。確かに「能力」を育成するのは非常に困難なことです。これは普通の教育によって実現していくことのように、評価者には思われます。(評価者A)	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 (設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。)	<評価者からのコメント> ・ 『修士論文優秀賞』を設置する」ということが6年後のめざす姿（目標）というのは、違和感があります。賞の設置（インセンティブの設定）は計画・検討（審査基準・方法等も含む）を経れば、実現可能です。(評価者A) ・ 「優秀賞」を設置は妥当な取り組みと評価できますが、それによってどのような学生の能力が育成されるか、その内容を記載することが期待されます。(評価者B) ・ 設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、研究科の特長を伸長させる内容であり、意欲的な取組みです。(評価者C)
評価指標 (目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。)	<評価者からのコメント> ・ 賞の設置ですから、評価尺度としては妥当だろうと思います。(評価者A) ・ 設置そのものは指標ではなく、優秀賞が授与される学生数などが評価指標としては適切ではないかと思われます。(評価者B) ・ 目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当です。(評価者C)
目標達成スケジュール (目標達成に向けたスケジュール設定は適切か(長すぎないか、短すぎないか))	<評価者からのコメント> ・ 少しスピード感に欠けるように思います。計画の前倒しを検討してはいかがでしょうか。(評価者A) ・ 設置そのもののスケジュールは、場合によってはもう少し早くすることも可能なように思われます。(評価者B) ・ 目標達成設置そのもののスケジュールは、場合によってはもう少し早くすることも可能なように思われます。に向けたスケジュール設定は適切です。(評価者C)

教育研究目標 4

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 2名	<u>左記を選択した理由：</u> ・ 「年度末等のしかるべき時期に研究発表の場を設ける」ということですから、具体的ですが、そのことと「博士論文を執筆できる能力の修得」との関連性が薄いように感じられます。さらに、研究科としてやろうと思えばすぐにも実施できるでしょうか、6年後の目指す目標とするには違和感を感じます。（評価者A） ・ 後期課程の学生による研究発表会の開催を提案しているからです。（評価者C）
「具体的でない」 1名	<u>左記を選択した理由：</u> ・ 研究発表の場を設けることと、学生の博士論文執筆能力の育成との関係をもう少し具体的に記載することが期待されます。（評価者B）
その他気づいた点： ・ ここでの「研究発表」というものがどのようなものを構想しているのか、イメージしにくい。例えば、学外の関係領域の研究者を招くのか、どの程度まで公開するのか（研究科内だけなのか）、研究発表の結果をどうするのか、評価をどうするのか、等々。また普通は学会発表や学外の研究会での発表を奨励していると思いますが、それとの関連はどうなのでしょう。（評価者A） ・ 後期課程の学生による研究発表会を実施することですが、今までなかったのが不思議です。（評価者C）	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ 「研究発表の場を設ける」こと自体は、研究科内の研究環境を活性化させるための方策としてはいいと思いますが、「能力の修得」とは関連性が低いように思われます。（評価者A） ・ 研究発表の場を設けることは妥当な取組みと評価できますが、それによって育成される学生の博士論文執筆能力の内容について、もう少し具体的に記載することが期待されます。（評価者B） ・ 設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、研究科の特長を伸長させる内容ですが、研究発表会の実施は当然のことであり、意欲的な取組み内容とは言い難いです。優れた博士論文を執筆するために研究発表会に加えて、なにか新しい提案が望まれます。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ 研究発表の開催そのものではなく、それによって修得される学生の博士論文執筆能力の内容を測るための指標が望まれます。（評価者B） ・ 目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当です。（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<u><評価者からのコメント></u> ・ 一年前倒しで実施できそうに思えますが、いかがでしょうか。（評価者A） ・ 研究発表会開催のスケジュールは、場合によってはもう少し早くすることも可能なように思われます。（評価者B） ・ 目標達成に向けたスケジュール設定は適切です。（評価者C）